

# 翔

2013 August No.223

百万石蝶談会



## 石川県白山市でヒメシジミ多数を観察

松井正人

白山市一里野スキー場のゲレンデで、ヒメシジミの雌雄を多数観察したので報告する。観察したのは、人工的に作られた日当たりの良いゲレンデで、ヒメシジミは、アカツメクサやシロツメクサなどで吸蜜していた。

石川県のヒメシジミは、アサマシジミよりも少ない種で、白山周辺の尾添川流域と柳谷流域の溪流に沿った河原から稀に観察されているが、このような河原は不安定で、小規模な出水で消失してしまうことから、これまで同じ場所で連年にわたって観察されたことはない。

今回、広い範囲で新鮮な個体が多数観察され、ゲレンデには、ヨモギなどのキク科植物やアカツメクサなどのマメ科植物などヒメシジミの食草になる植物が多数生育していることから、この場所は安定した発生地で、今後継続してヒメシジミが観察されると思われる。



2013年6月23日 石川県白山市一里野スキー場 ヒメシジミ ♂♀多数目撃 松井正人

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 石川県金沢市でヒメシジミを観察

松井正人

石川県内では、観察地が極限されているヒメシジミを金沢市横谷の順尾山（ずんのをやま）林道と金沢市熊走の犀鶴（さいかく）林道で観察したので報告する。

順尾山林道は、終点到順尾山登山道の案内看板があり、その周辺の狭い範囲でヒメシジミを観察した。♂はかなり飛び古した個体と新鮮な個体、♀はやや古い個体と新鮮な個体だった。

犀鶴林道は、水葉山みはらし広場で、♂♀ともに飛び古した個体だった。

2013年は、白山市一里野スキー場においても溪流とは無関係の場所で多数のヒメシジミが観察されている（松井、2013）が、これまでは白山周辺の尾添川流域と柳谷川流域の溪流に沿った河原から稀に観察されていた程度で、溪流から離れた場所で複数個体が観察された事はこれまで無かった。



図1. 順尾山登山道の案内看板の近くに止まるヒメシジミ♀



図2. 水葉山みはらし広場の案内看板の近くに止まるヒメシジミ♂

## ■観察記録

2013年7月6日 石川県金沢市横谷順尾山林道 ヒメシジミ 4♂3♀目撃 松井正人

2013年7月7日 石川県金沢市熊走犀鶴林道 ヒメシジミ 1♂1♀目撃 松井正人



図3. タニウツギの地上1.5m程の高さの葉に止まるヒメシジミのみ♀(順尾山林道)

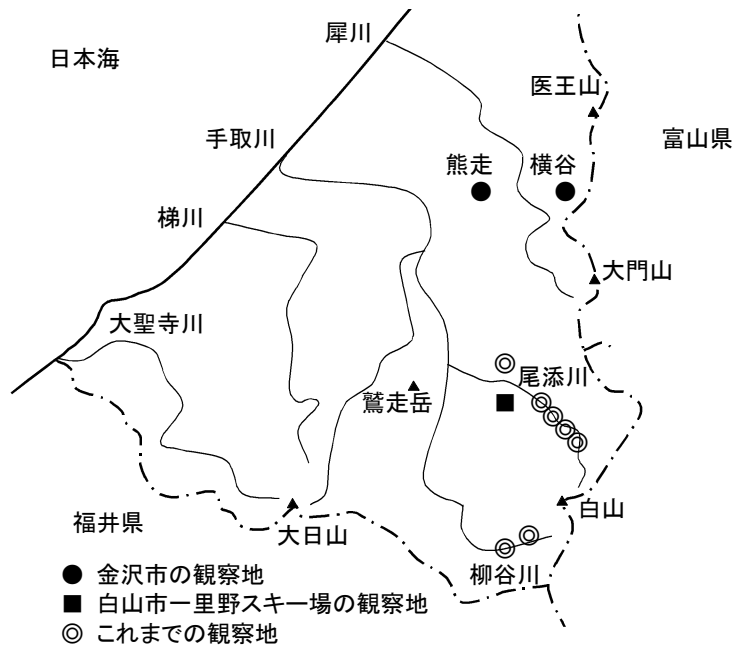


図4. ヒメシジミの観察地

《 参考文献 》

松井正人 (1998) 石川県のシジミチョウ 6. 翔(130):4-6.

松井正人 (2009) 石川県白山市でヒメシジミを採集. 翔(197):3.

松井正人 (2013) 石川県白山市でヒメシジミ多数を観察. 翔(223):1.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## てっちゃんの甲虫も楽し その1

浅地 哲也

幼稚園に通う4歳の娘がいるが、父（私）の趣味は有名らしく、園児がたまに我が家に見学に来ることがある。トンボ、チョウの標本はそこそこあるが、甲虫の標本が不足しているため、今年はリニューアルと同時に内容の充実も図って子供たちにも喜んでもらえれば良いなあー、と思いつつ採集に励んでいる。

なお、家庭の事情があり医王山など近場の採集が多く、過去のめばしい記録も交えて数回に分け記録する。

時間も無かったので、同定の難しい種については、シリーズ後半に同会のエキスパート師匠方に同定をお願いいただき、まとめて記録したく、この場を借りて御協力を乞う次第である。

## ■カミキリムシの仲間

2013年6月8日	富山県南砺市医王山	フチグロヤツボシカミキリ	3頭	浅地哲也
2013年6月23日	富山県南砺市医王山	ハンノアオカミキリ	4頭	浅地哲也
2013年6月16日	富山県南砺市医王山	カタキハナカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年6月29日	富山県南砺市医王山	チチブニセリングカミキリ	2頭	浅地哲也
2013年6月16日	石川県金沢市医王の里	アオカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年6月23日	富山県南砺市医王山	フタオビアラゲカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年5月25日	石川県金沢市医王山	カラカネハナカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年6月16日	石川県金沢市医王山	カラカネハナカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年6月29日	富山県南砺市医王山	トビイロカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年6月2日	石川県金沢市坪野	ベニカミキリ	2頭	浅地哲也
2013年4月29日	石川県金沢市坪野	スギカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年5月12日	石川県金沢市俵	スギカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年6月4日	石川県金沢市坪野	スギカミキリ	1頭	浅地哲也

## ■タマムシの仲間

2013年6月1日	富山県南砺市医王山	ルイスナカボソタマムシ	4頭	浅地哲也
2013年5月28日	石川県金沢市医王山	シロオビナカボソタマムシ	2頭	浅地哲也
2013年6月13日	石川県金沢市俵	カラカネチビナカボソタマムシ	2頭	浅地哲也
2013年6月16日	石川県金沢市医王の里	サビナカボソタマムシ	2頭	浅地哲也
2013年5月18日	富山県南砺市医王山	コガネナガタマムシ	1頭	浅地哲也
2013年6月1日	石川県金沢市医王山	コガネナガタマムシ	1頭	浅地哲也
2013年6月1日	石川県金沢市俵	シロテンナガタマムシ	1頭	浅地哲也

《あさじ てつや 〒921-8021 金沢市御影町26-21》

## クロコノマチョウの食草について

諸道 秀人

ジュズダマを中心にエノコログサ、ヒエ、メヒシバ、オヒシバ、ミヤコザサにて幼虫を採集し、飼育の際にはオカメザサ、オニスゲ、カサスゲで飼育可能。7月中旬より発生し、3回目の成虫が越冬個体（秋型）となった。

以上すべて、大津市南部衛生プラント敷地内である。

《もろみち ひでと 〒520-0865 大津市南郷4-23-12》

## 金沢大学角間キャンパスのオオムラサキとシンジュサン

松井 正人

金沢大学角間キャンパスで、早朝に街灯下の道路上から胴体がつぶれたオオムラサキとシンジュサンの後翅1枚を観察した。オオムラサキは新鮮な♀で、乾燥していなかったことから、つぶれて間もないと思われた。

オオムラサキは最近の観察例が少なく、シンジュサンの観察例も少ないようなので報告した。

2013年7月9日 石川県金沢市角間金沢大学構内 オオムラサキ 1♀ 松井正人

2013年7月9日 石川県金沢市角間金沢大学構内 シンジュサン 後翅1枚 松井正人

### 《参考文献》

樋口陽平（2008）金沢市でシンジュサンを採集. とつくりばち(76):61.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

---

### 表紙のむし - ヒメシジミ -

もう40年以上も昔、トガクシシジミを採集に戸隠高原に出かけたことがある。あちこち探して牧場でようやく見つけ、ルンルン気分で帰りの電車に乗った。ところが、展翅する段になって様子がおかしいことに気が付いた。トガクシであってほしいと願いを込めて図鑑とにらめっこしたが、三角紙の中身はどれもこれもヒメシジミだった。

松井正人

---

## 自動録音によるセミの定点調査

松 井 正 人

セミは姿が見えなくても、鳴き声を聞くことによって種を判別することができる。最近では、録音器材の性能が良くなり、数日間に及ぶ自動録音も可能になって、任意の時間や場所で自動録音を行えば、その場に居なくても、どんなセミが鳴いているのかを調べることができる。

### ■ 定点調査の実施

アカエゾゼミが観察できる白山市瀬女高原（松井、2012）に、9時から13時にかけて自動録音する装置を、7月22日から9月2日にかけてセットし定点調査を行った。ICレコーダーは、電池交換無しで約33時間の録音ができるため、1日4時間の録音を7日間（28時間）行ったところで電池を交換した。この時に記憶媒体も交換したが、記憶容量には十分な余裕があった。

調査地	石川県白山市瀬女高原（標高930m）
調査期間	2012年7月22日～9月2日の43日間
録音時間	9時～13時（1日4時間）
録音装置	ICレコーダー タイマー録音
記憶媒体	microSDカード 8GB
保存形式	MP3 (320Kbps)、1ファイル4時間563MB
録音	外部マイク接続
電源	単4アルカリ乾電池2本

定点調査で得られた172時間の録音は、総て通常の手速で再生し耳で聞いてセミの声を聞き出し種を判別した。判別が難しいエゾゼミ類の声は、音声分析ソフト（Avisoft-SASLab Light）を利用して判別したが、ノイズに紛れている声は判別できず、これについては鳴き声で昆虫を識別するシステム Chu-lingual（和田ほか、2012）を利用して判別した。

### ■ 調査結果

録音のほとんどはノイズばかりで、雨の音や風にそよぐ木の葉の音、上空を飛ぶ航空機の音が大きく録音されていた。そんな中から、エゾハルゼミ、ヒグラシ、アカエゾゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、アブラゼミの6種の鳴き声を得られた。

エゾハルゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミの声は多く得られ、エゾハルゼミは7月下旬、

ヒグラシは8月上旬、ミンミンゼミは8月下旬に最も多かった。アカエゾゼミの声は、7月30日から8月19日にかけて得られたが、7月30日から8月1日に集中していた。鳴き声が聞こえた日と時間を表1に示す。

表1. セミの鳴き声が聞こえた日と時間

	9:00~	9:30~	10:00~	10:30~	11:00~	11:30~	12:00~	12:30~
7/21								
7/22								
7/23		エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
7/24	エ	エ	エ	エ	エ	エ		エ
7/25	エ		エ	ヒ				エ ヒ
7/26	エ	エ	エ	エ			エ ヒ	
7/27	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
7/28		エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
7/29	エ	エ	エ ヒ	エ	エ ヒ	エ ヒ	エ	エ
7/30			エ ア	エ ア	エ ア	エ ア		
7/31			ヒ			ア		ア
8/1			ア				ヒ	ヒ
8/2							ヒ	ヒ
8/3							ヒ	ヒ
8/4							ヒ	ヒ
8/5							ヒ	ヒ
8/6						ヒ		ヒ
8/7	ア					エ		
8/8								
8/9							ヒ	
8/10			ア					ヒ
8/11								
8/12							ヒ	
8/13								
8/14								
8/15								
8/16								
8/17								
8/18							ミン	
8/19			ア					
8/20								
8/21								
8/22								
8/23		ミン		ツク				
8/24							ミン	アブラ
8/25								
8/26								
8/27					ミン		ミン	
8/28						ミン	ミン	
8/29								
8/30	ミン				ミン			
8/31	ミン	ミン						
9/1					ミン		ミン	
9/2								

エ：エゾハルゼミ、ヒ：ヒグラシ、ア：アカエゾゼミ、ミン：ミンミンゼミ、ツク：ツクツクボウシ、アブラ：アブラゼミ





図1. 録音装置の設置状況

#### ■まとめ

自動録音によるセミの生息調査は有効と思われる。しかし、録音は簡単に行えても、再生してセミの声を聞き出すには録音時間と同じ時間が必要になり、調査箇所を増やすことは声を聞き出す時間を増やすことにつながるため、むやみに調査箇所を増やすことは出来ない。

今回は実際に耳で聞いてセミの声を聞き分けたため、録音時間と同じ時間が必要になったが、声の聞き分けが自動で行える音声ソフトがあれば、時間の制約が無くなり利用性は高まる。そうなれば、セミに限らず、広く鳴く生き物の生息調査に使えられると思われる。

#### ■謝辞

調査を進めるにあたり、録音の器材や手法について御世話になった石川県林業試験場の矢田豊氏、Chu-lingualを利用した種の判別で御世話になった金沢大学の北川章夫氏ならびに研究室の皆さん、調査地への出入りについて御世話になった白山市の中村明男氏に厚くお礼申し上げます。

#### 《 参考文献 》

松井正人 (2012) 石川県各地でアカエゾゼミを観察. 翔(216):6-10.

和田智晃、秋田純一、北川章夫 (2012) 昆虫音声を用いたスマートフォンで投稿可能な環境モニタリングシステム Chu-lingual. 情報処理学会論文誌 53(3):1017-1021.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 会員の動き・しゃばの動き

### ■珠洲でアサギマダラの認知度高まる

珠洲でアサギのマーキングが始まって9年。大きな網を持って海岸を歩けば人目に付き、小学校での取り組みや、地元の熱烈なファンによって認知度は格段に高まっている。舟を片付けているおじさんの横でマーキングしていると、「アサギマダラを海で見る事がある。舟に止まることもある。」と話かけられた。

### ■佐渡で意気込む大脇氏

10数人で行ったマーキング会、去年は1頭も観察できず、今年こそはと意気込んで4頭を捕獲。その4頭目が、1週間前に松井氏が狼煙で標識したアサギで、思わず携帯で報告した大脇氏だった。

### ■大雨後の緊急調査はスカ

大雨が予想されると、洋上移動中のアサギは陸地に避難し、観察数が増える。6月18日の珠洲は、前日までとは打って変わって大量に観察され「キカイ」マークも見つかった。午後からは雨が降りだし翌19日午前中は大雨。この大雨後の緊急調査を20日に仕掛けたが、加賀市、能美市、金沢市、珠洲市ともに空振り。雨が上がった19日午後から飛び去った可能性が高い。

### ■今日も医王山通いは続く

医王山でヨコヤマトラをゲットし井村会長にこよなくほめられた浅地氏、なんと2頭目のヨコヤマをゲット。更にはビカビカのオオキンカメもゲットし、気分は上々。次なる獲物を求めて、これでもかと医王山通いを続けている。

### ■黒いものがフワリ

オオミスジの発生木に近づくと、黒い大きなものがフワリと飛んだ。羽化直後かと思って探すと、またフワリ。見つけたのはビカビカのメスグロヒョウモンで、飛んでも直ぐ止まる。撮影に打ってつけと近づくと、もう1頭飛び出した。どちらもビカビカのメスで、楽しませてもらった。

### ■ヒメシジミの発生地

最近、何処の林道も入口に錠がかり、今年は中宮スキー場林道や荒谷林道も入れなくなった。唯一入れた一里野スキー場林道で、車から降りるとシジミが舞った。気が付けば、アカツメクサにヒメシジミのペアが止まっている。周辺を歩けば新鮮なヒメシジミがいくつも飛び出した。

### ■エゾハルゼミはいつ鳴くの

白山周辺では、標高500m付近で5月頃から鳴いているが、白山から離れるに従って標高が高くなり、鳴く時期も遅くなる。医王山では、ピーク周辺で7月下旬になってようやく鳴き始めるが、何でかなあ。

### ■馬の背撮影会

6月23日、医王山は早朝から釣り竿とでかいレンズのカメラを抱えたおじさん達で賑わった。フジ狙いと聞いたが、初めて医王山に来たようなおじさん達、どこから情報が伝わったのか。

### ■夕日寺撮影会

6月30日、竹谷、小幡のカメラ組は、山氏を誘って夕日寺健民自然園で撮影会を開催。とにかく暑い日で、午後は自然園の事

務所に入り込み、事務所の松枝氏を囲んでムシネタ話に花を咲かせた。

### ■エゾハルゼミとヒメシジミの相性

松井氏、一里野でヒメシジミを見つけてからは、行く先々でヒメシジミが見つかるらしい。ヒメを探している訳ではなく、エゾハルの声を聞きに行くと、そこにヒメがいるらしい。

### ■ 例 会 の 記 録 ■

6月13日(木)浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、井村会長のカミキリ紹介。菌糸ビンで育てたセダカやナンキコブの生虫、オニヒゲナガコバネなどの格調ある標本を見せびらかし、カミキリの魅力を語った。

主な話題は、相次いだ北上アサギの長距離再観察、医王山でヨコヤマトラ、馬の背サロンの賑わいはこれから、自宅前の排水溝にヤゴがいっぱい、セミの展翅と展脚を同時にする方法、冷凍庫サイズの標本箱、

輪島市で見つかったカンアオイ、などなど。

参加は、井村、浅地、松井、勝海、細沼の5人。

### ■ 例 会 の 記 録 ■

7月4日(木)浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、松井氏が一里野スキー場のヒメシジミを紹介。これまで稀な存在で、狙っても観察できるか分からなかったヒメシジミが、スキー場の明るい草原にウジャウジャで、まるで信州の発生地のような感じだとか。

その他の話題は、医王山のヒサマツ3大ポイント、馬の背ポイントは人だかり、キゴ山産のウラゴマが産卵、科博からタイプ標本を借りる方法、医王山初記録の虫がゴロゴロ入った標本箱、人気のφ80センチ級大型軽量樹脂フレーム、などなど。

参加は、細沼、大宮、松井、竹谷、浅野、吉村、福富、井村、浅地の9人。

### ■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

## 目 次

松井正人：石川県白山市でヒメシジミ多数を観察	1
松井正人：石川県金沢市でヒメシジミを観察	2
浅地哲也：てっちゃんの甲虫も楽し その1	4
諸道秀人：クロコノマチョウの食草について	5
松井正人：金沢大学角間キャンパスのオオムラサキとシンジュサン	5
松井正人：自動録音によるセミの定点調査	6
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

## 翔 223号

Tobu 2013年8月10日発行  
百万石蝶談会  
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727  
郵便振替 00750-8-562  
印刷 小西紙店印刷所

